



第12号

平成25年3月1日

発行所

福島県立二本松工業高等学校同窓会
〒964-0937

福島県二本松市榎戸1丁目58ノ2

TEL 0243-23-0960

FAX 0243-22-7388

発行者

佐藤忠司

印刷

株式会社丸井工文社

発行部数

4,000部

CONTENTS

同窓会会長挨拶	2
学校長挨拶	3
創立五十周年記念事業	4
学校近況	5
新会員のことば／進路状況	6
同窓会だより	7
母校だより	8

■松工Eメールアドレス
school@nihonmatsu-th.fks.ed.jp

■松工ホームページアドレス
http://www.nihonmatsu-th.fks.ed.jp/

福島県立二本松工業高等学校 同窓会 会報

校歌

詞 草野心平
曲 小山清茂

一日輪は 天にかがやき
阿武隈は 光る動脈
ここ榎戸の 美しき地に
日毎集る われら若人
腕組まん ともに
学ばなん ともに
真善美 ひたに求めて
ああ母校 二本松
われらは愛す われらが母校

二 新しく 時はめぐりて
安達太良に 白き雲滯く
ここ榎戸の 台地より見る
あの高きこそ われらが理想
肩あげん ともに
はげまなん ともに
大いなる未来 ひたに望みて
ああ母校 二本松
われらは愛す われらが母校



同窓会会長挨拶



佐藤 忠司

プロフィール

昭和四十年度土木科卒業
昭和四十一年国鉄盛岡工務局に就職、昭和六十二年
に東日本旅客鉄道株式会社・東北工務所所長に勤務
平成十九年一月定年退職し、仙建工業福島支店に嘱
託として勤務。一昨生二月退職し年金生活を送る。
昨年十月から復興の手伝いでジェイアール東日本
コンサルタンツ東北支店勤務となり、仙台まで通勤
生活を送っています。

「新たな歴史の始まり」

会員の皆様には益々ご健勝のこと
とお喜び申し上げます。

昨年は昭和三十七年福島県立二本
松工業高等学校として開校してから
満五十年目に「五十周年記念事業」
を十一月十七日に行うことができました。

皆様方からの暖かい協賛金、PT
A、現旧教職員、関係企業のご寄附
により式典・祝賀会を滞りなく行う
ことができました。また、「明和電
機」の土佐信道氏を講師に招き記念
講演を楽しく過ごさせていただきま
した。

一昨年の六月から教職員の企画委
員会に始まり九月の第一回実行委員
会を開催し七回目の会まで教職員・
PTA役員・同窓会役員・理事の皆
様には改めて御礼申し上げます。

同窓会独自事業として、「応援歌
碑」の建立、校歌・応援歌のCD製作、
一昨年の渡辺純一氏の「待春」の絵
画の贈呈と行うことができました。
応援歌碑の製作にあたっては、OB
の小形晃さん（メーソン常務）から
竿石を寄贈され、誠にありがとうございました。

応援歌も応援団が廃部になった約
十年前から歌われなくなり、応援団
の復活と応援歌で選手を激励し送り

出してくれるようお願いしたいもの
です。

新たに百周年、とりあえず六十周
年を目指し歴史を作って行きたいも
のです。

平成二十三年三月十一日の東日本
大震災・原発事故から二年目を迎え
ようとしています。事故はいまだに
収束せず、今なお十五万人が県内外
に避難しています。早急にライフラ
インの復旧・復興が望まれます。放
射能除染も市町村が持っている住宅

除染計画戸数に対して完了戸数は
十三%の達成率にしかなっていない
なかなか進まない状況です。現在も
被害は拡大し続けていて、二度と原
発事故を起こしてはならないし、原
発を続ける限り処理する方法がない
「核のゴミ」が増え続けることにな
ります。

昨年の衆議院選挙では、三年間続
いた民主党政権から自民党・公明党
政権に代わりさつそく「高校生授業
料無償化」の所得制限を導入する動
きが出てきています。昨年、高校
生・大学生が学費の無償化を求めて
東京都渋谷区で集会とパレードを行
いました。「安心して学べることが
授業料無償化で一番大きい、学びた
いと思う人が学べるような社会にし

たい」と女子高校生が話しています。

また紙上によると、維新の一定の議
席数も含め、国防軍の話題も出てい
て、集団的自衛権の行使のため法制
定・憲法改正がアメリカの戦争に参
戦するため、海外での武力行使を禁
じた従来の憲法解釈の変更を主張す
る勢力の増加には危険を感じます。
平和憲法の問題等オスブレイ、米軍
の暴力行為の問題をみると日米安保
条約も考える時期に來ていると思
います。

経済面でも国債の増刷をし、イン
フレ二%を見込み景気浮揚を図ろう
としています。消費増税の準備
に見えます。いまの景気が悪い時期
に働く人の賃下げのままでは、ま
す苦しくなります。

昨年は引き続き「資格の松工」を
示した在校生の活躍、野球・カヌー・
バトミントン・マイコンラリーの全
国大会出場とスポーツ面での活躍を
紙上で見ると胸躍ります。

今回の協賛金の訴えのため全員
へ会報を送付しましたが、会員
一万六百余名に対し、八千名程度の
送付になりました。各クラス幹事の
皆さんには同級生の住所の把握をお
願いします。

学 校 長 挨拶



湯田 恒弥

プロフィール

下郷町生まれ。専門教科は工業（機械）。趣味は、山登り（日帰り）、スキー、読書等。福岡工（岩手県）、川俣、福島工（定時制）、喜多方工、会津工、郡山萌世（定時制）、平工に勤務し、平成二十二年四月本校に着任、現在に至る。

「五十周年記念事業を終えて」

同窓生の皆さん、いかががお過ごしでしょうか？ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。日頃より本校の教育活動を物心両面で、ご支援ご協力していただき誠にありがとうございます。

昭和三十七年四月に開校した本校は平成二十四年十一月十七日、二本松市民文化センターで五十周年記念式典を挙行することができました。こうして無事に終えることが出来たのは同窓生皆様方のご協力の賜と思っております。佐藤忠司同窓会長には五十周年実行委員長として、またその他、多くの同窓会の方々に実

行委員会をお願いしてPTAの役員の方々とともに数年前から何度も会議を持ちながら準備を進めてまいりました。さらに同窓生の方々には協賛金などでご協力いただき誠にありがとうございました。

今回の記念事業にあたり同窓会からは、絵画「待春」（渡辺純一氏（土木科一期生）制作）や「応援歌碑」の寄贈、「応援歌のCD製作」などをしていただき誠にありがとうございました。絵画「待春」は玄関の階段脇に、「応援歌碑」は「校歌碑」の隣に設置してありますので、本校にお立ち寄りの際は是非ご覧になっていただきたいと思います。これらの物を見るに付けて、同窓生の母校を思う気持ちと後輩に対する熱い期

待が込められていることを在校生に感じ取ってもらえるようにしたいと思っています。

以前から松工には立派な「応援歌」があるのに、壮行会などでも歌う機会がなく、歌える生徒が少ないのが課題となっておりまして。しかし、今回、「応援歌」をCDにしていたできましたので、全校生が歌えるようになるのではないかと期待しております。

私事で恐縮ですが、十一月四日に右上腕骨を骨折して手術をして治療に専念してしまいました。記念式典に出席するために懸命に治療をしておりましたが、思うように回復できず「十七日の式典時は外出禁止」を医師から宣告されてしまいました。そんな理由で大事な式典を始めとする様々な行事に出席できずに誠に申し訳ありませんでした。この場を借りて深くお詫び申し上げます。

次に学校の様子ですが、機械システム科（八十名）と都市システム科（四十名）の定員は変わりませんが情報システム科は八十名から四十名となりました。ここ三年間の情報システム科を見ますと四十名減、四十名増、四十名減という変わりようです。情報システム科のコースはエレクトロニクスとコンピュータの二つのコースです。時代の流れとはいえず昭和四十四年から続いていたデザイン系の教科や実習が今年度で姿を消す

ことになるのは寂しいことです。

また部活動や資格取得では、伝統を守り今年も大活躍しております。詳しくは記録をご覧ください。そんな中で今年、特筆すべき事は、工業技術を競う様々な大会で良い成績を上げたことです。ものづくりコンテスト福島県大会では測量部門と旋盤部門で優勝し次年度の東北大会への出場権を獲得、ジャパンマイコンカーラリー2013福島県大会では、アドバンス部門で第二位となり全国大会（二月札幌で開催）への出場権を獲得（三年連続出場）、第一回福島県高等学校溶接技術競技会では団体の部で優勝、個人の部で最優秀賞などです。

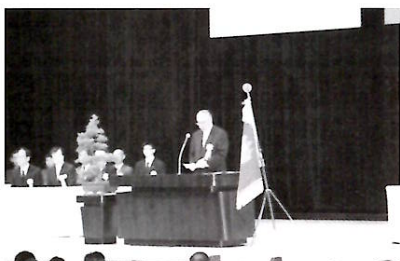
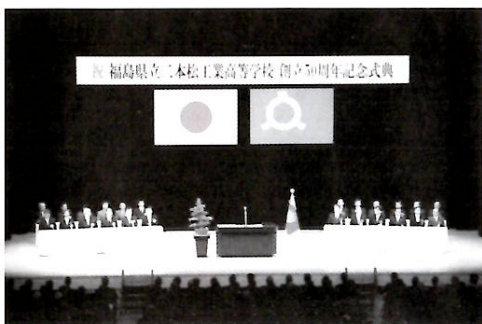
今回の溶接技術競技会は福島県溶接協会が主催し福島県内では初めて開催されました。福島県溶接協会会長は昭和四十二年度本校電気科卒業の伊藤賢一氏（東開工業株式会社代表取締役）です。「閉会式の時に、賞状や記念の楯を母校の生徒に渡すことが出来て本当に嬉しかった。」とおっしゃっていました。

最後になりますが、五十周年を機に本校の教職員は、「生徒の夢実現」のために一生懸命取り組んでいきますので、同窓生の皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

創立五十周年記念事業

創立五十周年記念式典は十一月十七日（土）、二本松市民会館で行われました。実行委員長の佐藤忠司同窓会長がいさつし、歴代同窓会長の佐藤昭次氏に感謝状を贈呈しました。生徒、教職員、同窓会、PTA関係者ら約千人が出席し、生徒代表が「伝統を受け継ぎ、さらに発展させていけるように努力していきたい」と決意を述べました。

式典後には、「明和電機」



の土佐信道さんによる記念講演が行われました。「明和電機 会社説明会」「ナセンス発想とモノ作り」と題し、ユーモアあふれる楽器を演奏しながら、ものづくりの魅力を生徒たちに伝えていただきました。

同窓会は、母校の創立五十周年を記念して応援歌碑を建立し、あわせて応援歌のCDを作成いたしました。歌碑には応援歌の「奮起」と「決戦譜」が刻まれ、創立二十周年の「校歌」、創立四十周年の「校訓」の記念碑とともに校舎前庭に設置されました。十一月十五日（木）には、同窓会、PTA、教職員らが出席し、応援歌碑除幕式が厳かに執り行われ、生徒会長が感謝の言葉を述べました。



昨年、二月二十九日（水）に渡辺純一氏（土木科一回生）より寄贈いただいた絵画「待春」の贈呈式が行われました。後輩の勉強の励みになればと贈られた一〇〇号の大きな絵画は校長室脇の階段踊り場に飾られ、式では佐藤忠司同窓会長と湯田恒弥校長がいさつし、渡辺氏へ感謝状が贈呈されました。



平成22～24年度 年間資格・検定試験取得数

平成25年2月22日現在

国 家 資 格				検 定 試 験					
資格名		平成 22年	平成 23年	平成 24年	資格名		平成 22年	平成 23年	平成 24年
ガス溶接技能講習		83	79	61	実用英語検定	準2級	0	3	1
ボイラー技士講習		76	0	74		3級	0	13	3
2級ボイラー技士		0	0	0	リスニング英語検定	1級	0	0	23
電気工事士	第1種	13	17	11		2級	1	17	53
	第2種	12	14	27		3級	20	28	65
危険物取扱者	乙1類	7	3	4	計算技術検定	2級	0	0	2
	乙2類	2	6	5		3級	166	150	172
	乙3類	4	4	7	漢字能力検定	2級	3	3	3
	乙4類	28	15	12		準2級	17	26	21
	乙5類	2	6	4		3級	87	38	62
	乙6類	6	4	3	情報技術検定	1級	0	0	1
消防設備士	乙4類	1	0	0		2級	15	17	19
土木施工管理技士		2	1	0		3級	130	77	97
車両系建設機械 運転技能者	小型車両	48	44	18	実用数学検定	準2級	0	2	0
	フォークリフト	44	97	91		3級	2	1	0
	小型クレーン	0	0	44	基礎製図検定		48	39	44
	高所作業	15	28	27	機械製図検定		22	38	48
	締固用機械	35	31	22	測量技術検定	1級	22	19	37
玉掛け	22	36	92	2級		48	43	39	
工事担任者	AI1種	0	0	1	パソコン利用技術検定	2級	1	2	4
	DD1種	4	2	2		3級	9	32	56
	DD3種	24	20	16					
技能士	3級	0	1	3					

平成24年度 各種大会成績（東北大会以上）

国際大会

○カヌー部

- ・カヌースプリントジュニア国際レガッタ（スロバキア）
- カヤックペア1000m 予選7位 大槻一樹
- カヤックペア500m 準決勝8位 大槻一樹
- カヤックペア200m 予選8位 大槻一樹

全国大会

○カヌー部

- ・平成24年度全国高等学校総合体育大会
- カナディアンフォア200m 第5位 斎藤 晃、武田慶紀
服部拓斗、塩谷勇太
- ・文部科学大臣杯平成24年度日本カヌースプリントジュニア選手権大会
- カナディアンフォア200m 優勝 斎藤 晃、武田慶紀
服部拓斗、塩谷勇太
- カヤックペア500m 第3位 大槻一樹
- カヤックフォア500m 第3位 大槻一樹、嶋原雄斗
- カヤックフォア200m 第3位 大槻一樹、嶋原雄斗
- カヤックペア500m 第6位 渋谷朱里
- カヤックフォア500m 第2位 渋谷朱里
- ・第8回日本カヌースプリントジュニア・ジュニアユース小松大会
- カナディアンシングル1000m B決勝3位 服部拓斗
- カナディアンシングル500m A決勝8位 服部拓斗

○情報システム科

- ・ジャパンマイコンカーラリー 2013全国大会
- アドバンスクラス 予選75位 斎藤弘貴

東北大会

○カヌー部

- ・平成24年度東北高等学校カヌースプリント選手権大会
- カナディアンペア 第5位 斎藤 晃、武田慶紀
- カナディアンペア 第6位 服部拓斗、塩谷勇太
- カヤックペア 第5位 大槻一樹、嶋原雄斗
- カナディアンフォア 優勝 斎藤 晃、武田慶紀
服部拓斗、塩谷勇太
- カヤックフォア 第4位 大槻一樹、嶋原雄斗
秋元龍司、野地裕太
- ・第3回東北高等学校新人カヌースプリント選手権大会
- カヤックシングル500m 第6位 嶋原雄斗
- カヤックシングル500m 第9位 朝倉章太
- カナディアンシングル500m 優勝 服部拓斗
- カナディアンシングル500m 第5位 斎藤 海
- カヤックペア500m 第2位 嶋原雄斗、野地裕太
- カヤックペア500m 第6位 佐藤公也、朝倉章太
- カナディアンペア500m 優勝 服部拓斗、塩谷勇太
- カナディアンペア500m 第4位 斎藤 海、野地一輝
- カヤックフォア500m 第2位 嶋原雄斗、佐藤公也
朝倉章太、野地裕太

○バドミントン部

- ・第41回東北高等学校バドミントン選手権大会
- 男子団体 一回戦敗退
- 牛坂京介、小泉 崇、伊藤 光、菅野晃太
- 舟橋脩平、水梨直人、菅野 敦、武藤和紀

○機械システム科

- ・第24回全日本ロボット相撲東北地区大会
- 二回戦敗退 大内勇生、鈴木貴大、中村俊樹、西本大将

学校
近況

新会員のことは

三年五組 根本 和也

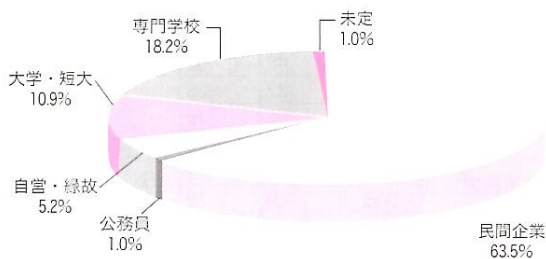
この度、私達は二本松工業高等学校同窓会の仲間入りをさせて頂いたきます。この三年間学んだ松工を離れ、一人の社会人になる私達は大きな期待を持つと同時に、不安も持っています。ですが、この松工で経験したことをもとに、しっかりと前へ進んでいきたいと思っています。

今年度は、昨年に比べ自分が一番希望する会社への内定がいただける生徒が多く、経済状況の厳しいなかでも非常に良いすべりだしとなりました。この高い内定率を維持しているのは、素晴らしい伝統を残されてきた先輩方の活躍と厚い信頼があつての事だと思っています。

これから私達は松工の同窓会会員としてお世話になるわけですが、社会人の一歩を踏みだした私達は未熟者であります。そのためいろいろな事で皆様に迷惑をかけてしまう事がありますが、そのような時こそ、先輩の教えや松工で学んだ事を思い出して、一つ一つ乗り越えていきたいと思っています。これからも皆様方の温かいご指導、ご鞭撻をよろしくお願いいたします。

平成24年度 進路状況

(平成25年1月30日現在)



学科名	民間企業	公務員	自営・縁故	大学・短大	専門学校	卒業予定者
機械システム科1組	24	0	1	2	10	38
機械システム科2組	29	1	3	2	5	40
情報システム科3組	21	0	1	8	9	39
情報システム科4組	27	0	0	6	7	40
都市システム科5組	21	1	5	3	4	35
合 計	122	2	10	21	35	192

就職 県内 (89社119名)	
株式会社アースホールディングス	天栄産業株式会社
社会医療法人寿公会 あづま脳神経外科病院	東岡工業株式会社
南吾妻プレス工業株式会社	東邦ゴム工業株式会社
株式会社原ホテル	東北協同乳業株式会社
南アンサー	東北江南株式会社
株式会社イシマ	株式会社東北電設
池田食品工業株式会社	東北研工業株式会社
石橋建設工業株式会社	トヨタ工機株式会社
株式会社磯野製作所	株式会社ナックス
イトウウエーター	ナシン精工株式会社
エージェンツ・ケイ	日昇工業株式会社
株式会社エム・エフ・ティ	日伸工機株式会社
エムケー物流株式会社	株式会社福島製造所
大内新興化学工業株式会社須賀川工場	株式会社日本デジタル研究所
大槻電設工業株式会社	二本松シール工業株式会社
株式会社尾形土木	柏洋硝子株式会社
神奈川精機株式会社	株式会社高電設
菅野建設工業株式会社	株式会社ワーデックス
南神野建設工業株式会社	株式会社福島アスコン
北芝電機株式会社	福島エーアンドエーフロイラー株式会社
株式会社協栄製作所	福島ギヤノン株式会社
株式会社共栄フレン	福島グラビア株式会社
共伸プラスチック株式会社	株式会社福島芝浦電子
ケリム・エナジー株式会社	福島製銅株式会社
株式会社クレハ生産本部いわき事業所	株式会社福島地下開発
ケーツーモデリング株式会社	株式会社フクシマフーズ
弘栄建設工業株式会社	株式会社藤田建設工業株式会社
寿建設株式会社	富士通アイソテック株式会社
南佐々木スチール工業株式会社	フリスストン・生産財タイヤソリューション・北
株式会社佐々木電気商会	日本産ハンダ・リフレッド福島ファクトリー
株式会社佐藤製作所	北部通信工業株式会社
佐藤機料株式会社	北光金属株式会社
三光化成株式会社	前田製管株式会社
株式会社サンライト	株式会社増子建築工業株式会社
株式会社C K F	株式会社マルコ物流
株式会社シンコー	株式会社南丸中建設
南信和創建株式会社	株式会社マルヨシ工業株式会社
株式会社菅澤建設工業株式会社	南電設株式会社
南杉内商事株式会社	三春工業株式会社
住軽エンジニアリング株式会社	宮城シマダヤ株式会社
ソニーエナジー・デバイス株式会社	宮本技研工業株式会社
高橋電機株式会社	南ムラマツ建築株式会社
株式会社田口興産	株式会社ヤクルト本社
株式会社T T S	矢田工業株式会社
テクノメタル株式会社	株式会社彌瀧川プレジジョン本社工場

就職 県外 (10社12名)	
株式会社五十嵐電機製作所	
共立印刷株式会社	
東京地下鉄株式会社	
東京美術紙工業組合	
東京ヤサカ観光バス株式会社	
東北電力株式会社	
日産自動車株式会社	
東日本電気エンジニアリング株式会社	
三菱自動車工業株式会社	
株式会社向山工場	
就職 公務員 (2名)	
陸上自衛官候補生	

進学 大学 県内 (3校8名)	
日本大学 工学部 機械工学科	
日本大学 工学部 電気電子工学科	
日本大学 工学部 土木工学科	
福島学院大学 福祉学部 社会福祉心理学科	
いわき明星大学 人文学部 表現文化学科	

進学 大学 県外 (4校5名)	
東北工業大学 ライフデザイン学部 経営コミュニケーション学科	
東北工業大学 ライフデザイン学部 安全安心生活デザイン学科	
東北福祉大学 子ども科学部 子ども教育学科	
徳島大学 工学部 情報学部 情報ネットワークコミュニケーション学科	
城西大学 経済学部 経済学科	

進学 短期大学 県内 (3校7名)	
福島学院大学短期大学部 保育科	
福島学院大学短期大学部 食物栄養科	
校の聖母短期大学 キャリア教養学科	
福山女子大学短期大学部 幼児教育科	

進学 短期大学 県外 (1校1名)	
城西短期大学 ビジネス総合学科	

進学 専門学校 県内 (11校20名)	
福島県立テクノアカデミー会津職業能力開発校	
福島県立テクノアカデミー浜職業能力開発校	
福島県立テクノアカデミー会津職業能力開発校	
福島県立テクノアカデミー会津職業能力開発校	
福島県立テクノアカデミー会津職業能力開発校	
福島県立テクノアカデミー会津職業能力開発校	
福島県立テクノアカデミー会津職業能力開発校	
福島県立テクノアカデミー会津職業能力開発校	
福島県立テクノアカデミー会津職業能力開発校	
福島県立テクノアカデミー会津職業能力開発校	
福島県立テクノアカデミー会津職業能力開発校	

進学 専門学校 県外 (14校16名)	
仙台こども専門学校	
仙台ビューティーアート専門学校	
仙台リゾート＆スポーツ専門学校	
赤門鍼灸系専門学校	
花壇自動車学校	
アジア動物専門学校	
群馬自動車学校	
東京コミュニケーションアート専門学校	
トヨタ東京自動車学校	
日産自動車学校	
東放学園音楽専門学校	
ESPギタークラフトアカデミー	
ホンダテクニカルカレッジ関東	
日本工学院八王子専門学校	



いづれの議案も全員一致で可決されました。
総会後も五十周年記念事業についての話題や、各会員の近況のことなどで時間いっぱい親睦を深め、有意義な時間を過ごすことができました。

また、創立記念事業のひとつの応援歌碑の建立、校歌・応援歌CDの作成についてでした。

同窓会長は創立五十周年記念事業への協力の依頼についてや協賛金の途中経過など。

平成二十四年度総会は湯田校長のご臨席を賜り、七月二十一日（土）「ウェディングバレスかねすい」にて行われました。二十三年度収支決算書・二十四年度予算書は下記の通りです。校長先生の話題はカヌー部のスロバキアの国際大会出場、東北大会でのカナディアンフォアの優勝。バドミントン部の東北大会出場。工事担任者試験の一種や三種に合格。第二種電気工事士試験に三十四名の生徒が一次試験に合格など、部活や資格取得で活躍する生徒の近況報告でした。

総会報告

同窓会 だより

■ 平成24・25年度役員 ■

役職	氏名	卒業年度	科
会長	佐藤 孝司	S40	土木
副会長	山崎 孝夫	S39	機械
〃	丹治 孝夫	S40	機械
〃	渡邊 孝夫	S41	土木
〃	大内 孝夫	S44	電気
〃	菊地 孝夫	S44	電気
〃	津田 孝夫	S48	デザイン
監事	熊谷 孝夫	S46	土木
〃	熊谷 孝夫	S49	土木
〃	山崎 孝夫	S55	土木
〃	佐々木 孝夫	S57	デザイン
理事・事務局次長	高橋 孝夫	S49	土木
理事	高橋 孝夫	S41	土木
〃	大内 孝夫	S41	土木
〃	星 孝夫	S42	土木
〃	阿部 孝夫	S42	土木
〃	安野 孝夫	S42	土木
〃	星 孝夫	S44	土木
〃	星 孝夫	S47	土木
〃	星 孝夫	S47	土木
〃	星 孝夫	S48	土木
〃	星 孝夫	S49	土木
〃	星 孝夫	S51	土木
〃	星 孝夫	S53	土木
〃	星 孝夫	S54	土木
〃	星 孝夫	S57	土木
〃	星 孝夫	S57	土木
〃	星 孝夫	S58	土木
〃	星 孝夫	S59	土木
〃	星 孝夫	S60	土木
〃	星 孝夫	S60	土木
〃	星 孝夫	H5	土木
〃	星 孝夫	H6	土木
〃	星 孝夫	H12	土木

職別	氏名	備考
初代会長	木相 孝夫	
二代会長	木相 孝夫	
三代会長	木相 孝夫	
四代会長	木相 孝夫	
学友会長	木相 孝夫	

職別	氏名	卒業年度	科	備考
委員長	秋山 孝夫	S39	機械	副会長
委員	渡邊 孝夫	S41	土木	副会長
委員	高橋 孝夫	S49	機械	理事・事務局次長
委員	安野 孝夫	S54	機械	理事
委員	小沢 孝夫	S60	土木	理事
委員	小形 孝夫	S48	土木	事務局

職別	氏名	卒業年度	科	備考
委員長	丹治 孝夫	S40	機械	副会長
委員	丹治 孝夫	S41	土木	理事
委員	丹治 孝夫	S47	土木	理事
委員	丹治 孝夫	S51	土木	理事
委員	丹治 孝夫	S57	電気	理事
委員	丹治 孝夫	H5	電気	事務局
委員	丹治 孝夫	H5	電気	事務局

職別	氏名	卒業年度	科	備考
事務局次長	丹治 孝夫	H5	電気	機械システム科
事務局次長	丹治 孝夫	S49	機械	情報システム科
事務局次長	丹治 孝夫	S49	機械	理・事務局次長
事務局次長	丹治 孝夫	S48	土木	都市システム科
事務局次長	丹治 孝夫	S48	土木	都市システム科
事務局次長	丹治 孝夫	S48	土木	都市システム科

■ 平成23年度同窓会決算書 ■

収入の部 合計 1,459,015円

科目	23年度予算額	23年度決算額	増減	備考
会費	935,000	925,000	△10,000	185人×5,000円
入会金	320,000	306,000	△14,000	新入生160人、転入7人、転出14人
雑収入	41	56	15	預金利息等
繰越金	227,959	227,959	0	
計	1,483,000	1,459,015	△23,985	

支出の部 合計 1,064,253円

科目	23年度予算額	23年度決算額	増減	備考
会議費	230,000	230,598	△598	役員会、同窓会総会、その他
行事費	30,000	19,200	10,800	入会式
通信費	50,000	40,000	10,000	ハガキ、切手
会報費	200,000	258,510	△58,510	会報第11号発行
慶弔費	30,000	15,000	15,000	香典、その他
記念品費	190,000	164,010	25,990	卒業記念品
後援費	180,000	115,625	64,375	激励金、新聞広告
事業費	300,000	0	300,000	
事業積立金	150,000	150,000	0	事業積立金会計へ繰り入れ
事務費	100,000	71,310	28,690	データ管理費、事務用品等
予備費	23,000	0	23,000	
計	1,483,000	1,064,253	418,747	

残額 394,762円

■ 平成24年度同窓会収支予算書 ■

収入の部 合計 1,724,800円

科目	24年度予算額	23年度予算額	増減	備考
会費	970,000	935,000	35,000	194人×5,000円
入会金	360,000	320,000	40,000	180人×2,000円
雑収入	38	41	△3	預金利息等
繰越金	394,762	227,959	166,803	
計	1,724,800	1,483,000	241,800	

支出の部 合計 1,724,800円

科目	24年度予算額	23年度予算額	増減	備考
会議費	270,000	230,000	40,000	役員会、同窓会総会
行事費	30,000	30,000	0	入会式
通信費	50,000	50,000	0	ハガキ、切手
会報費	200,000	200,000	0	会報発行
慶弔費	30,000	30,000	0	香典、その他
記念品費	190,000	190,000	0	卒業記念品
後援費	180,000	180,000	0	激励金、広告
事業費	300,000	300,000	0	会報発送等
事業積立金	280,000	150,000	130,000	
事務費	175,000	100,000	75,000	データ入力費・事務用品等
予備費	19,800	23,000	△3,200	
計	1,724,800	1,483,000	241,800	

歳出予算科目に過不足が生じたときは、会長にはかり各科目間において流用することが出来る。



カヌー部
カヌースプリントジュニア国際レガッタ大会
大槻 一樹



カヌー部
平成24年全国高等学校体育大会
斎藤 晃、武田慶紀、服部拓斗、塩谷勇太、斎藤 海



バドミントン部
第41回東北高等学校体育大会
牛坂京介、小泉 崇、伊藤 光、菅野晃太、舟橋脩平
水梨直人、菅野 敦、武藤和紀



機械システム科
第24回全日本ロボット相撲東北地区大会
大内勇生、鈴木貴大、中村俊樹、西本大将



情報システム科
ジャパンマイコンカーラリー 2013
斎藤 弘貴

編集後記

創立五十周年記念行事が、多くの皆様方のご協力により、無事終了することが出来ました。当日の天気は、あいにくの雨になってしまいました。何十年ぶりの再会という方々もあり、思い出話に花を咲かせ、学生時代を懐かしんでおられました。

二本松工業高等学校が、今後も「資格の松工」として、また工業界を発展させる人材育成の場として、ますます成長することを願います。

今回の会報は、第一回から第十回までの卒業生と、創立五十周年記念事業にご協賛いただいた方々にお送りいたします。その他に会報の必要な方は、事務局までご連絡ください。

会報委員長 丹治茂雄
委員 斎藤喜市
本田 正
橋本正一
鈴木新栄
高橋周平
佐藤孝則

事務局 佐藤孝則